

Coursera & TED Talks を利用したモバイル英語教育

小張敬之*1

Email: obari119@gmail.com

*1: 青山学院大学経済学部

◎Key Words Coursera, TED Talks, モバイル, 英語教育

1. はじめに

現在 Coursera のオンライン講義には約 384 件の英語講義が存在し、オンラインの講義を世界中でおおよそ 377 万人が学習をしている。インターネット上で自由に参加が可能な大規模オンライン講義が注目を集めた。それは Massive Open Online Courses (MOOCs) と呼ばれ、複数の著名な大学が参加する巨大なものもあり、現在アメリカの高等教育において重要性を増している [1]。本稿では、2012 年後期、この MOOCs や TED Talks を活用した英語の授業を都内の私立大学生を対象に行い、スマートフォンやタブレット端末の利用を奨励した実験成果を紹介する。この実験は、大学生 50 名を対象とした実証実験で、その英語学習効果を統計的に分析した。そして MOOCs や TED Talks のオンライン教材利用の可能性、及びモバイル学習の英語教育への可能性を探り、学習者がどのように問題点を克服し、英語の学習効果を上げたのかを本稿では考察したい。

2. オンライン教材

2.1 オンライン講義 MOOCs

アップル社の提供する iTunes U というサービスも広く知られており、2011 年度は iUniv のオンライン講座を使用して学生に英語を指導した。当時は、英語字幕・日本語字幕を自動的に切り替えることができる教材が少なく、字幕なしで講義の内容を理解するのは、ほとんど不可能であった。

しかしここ数年で、それまでのオンライン講義とはその性質が多少異なった MOOCs と呼ばれるオンライン講義サイトが多数出現している。MOOCs はその名の通り「大規模 (massive)」で、「誰もが参加可能 (open)」なことが特徴であり、受講者はコースに登録し、通常の授業のように学習を進めていくことが可能で、正規単位を出している大学もある。通常の授業と同じように、講読書リストや講義ノートを活用し、しかし、オンライン上でインターアクティブにクイズや課題などをこなすことが要求される。誰でもネットにつながさえすれば、無料で講義が受けられる [1-3]。

Coursera のオンラインの講義に関しては、好きなト

ピックを1つだけ選択して、実際にコースに登録して、毎日少しずつ講義を聴き、シラバスを参考にしながら 200 語程度の英文要約を奨励した。

2.2 TED Talks

TED は1984年に始まり、<http://www.ted.com/> 無償で公開されている様々なジャンルの講演を集めたものである。講演者は英語の母語話者に限定されず、様々な英語を聴くことができる。TED (Technology, Entertainment and Design) は、“Ideas Worth Spreading” で、示唆に富んだ世界を変える可能性をもった講演からなっている。すぐれた知見、世界観、人生哲学、考察、洞察等を ICT を使って速やかに伝えることで啓蒙するのが TED の目的である。

自分の人生に行かせる TED Talks を毎週1つ課題として聞くことを奨励し、その内容を英文で要約させて、小グループで討論させた。

3. モバイル英語教育実験での課題と授業内容

3.1 研究課題

オンライン上の Coursera の講義や TED Talk 等の学習素材をモバイル学習と統合させた場合、英語能力の向上にどのような学習効果が得られるかということを実証実験によって検証した。

- (1) オンライン授業とモバイル学習を統合した場合、学習者の英語能力に学習効果がみられるのか。(e-learning 付属の TOEIC を実施して検証)
- (2) 学習者の表出的英語能力 (ライティング) には学習効果がみられるのか。(毎週の英文要約の提出から検証)
- (3) オンラインの学習素材をモバイル端末でどの程度学習し、その教育効果をどう感じているのか。(事後のアンケート調査)

3.2 授業内容

2012 年度の後期、Coursera のオンライン講義と TED Talks を活用し、スマートフォンやタブレット端末の利用を奨励した英語教育を約 3 か月間行った。都内の私立大学に通う 1, 2 年生 50 名が対象で、事前と事後に e-learning 教材付属の TOEIC を実施した。

毎回の授業ではCourseraやTED Talksを利用した英語教育を30分間ほど行った。まず日本語・英語字幕付きでオンライン講義の内容を理解させ、ある程度内容が理解できた後で英語字幕を利用して英語をリピートさせた。さらに英語字幕を利用せず shadowing (listen and repeat) の練習も行った。毎週講義内容の200語程度の英文要約を義務付け、3か月で合計8つの英作文を提出させた。授業では小グループで、自分の書いた英文要約を互いにチェックし、原稿を見ないで oral summary を2分間で言えるように練習させた。

最後に英文要約を見ずに、英語で2分間の口頭要約をさせ、録音した音声をも LMS (Learning Management System) に提出させた。同時にモバイル端末に自分の音声を録音し、通学途中に聞き直ししながら練習することや、空き時間を利用し、モバイル端末で講義内容の学習をするよう奨励した。以上のような学習サイクルを3か月間繰り返させ、英語の学習効果を測った。

3.3 英語力の評価

2012年度秋学期初めの10月にPre-test, 3か月後の1月にPost-testを行い、学生の英語能力(リスニング・リーディング)をTOEIC(市販の模擬試験を利用)で測定した。また、学習者の表出的英語能力(ライティング)を評価する指標として、毎回提出された200語程度のライティング課題の評価を行った。最後に、学生の学習意識・実行行動を観察するため、アンケート調査も実施した。

4. 実験結果

- (1) オンライン授業とモバイル学習を統合した授業の前後では、TOEICの平均得点が585点から645点まで伸び、51点向上したことが判明した。 t 検定を実施したところ、0.1%以下で有意差が認められた($t(49) = 5.11, p < .001$)。
- (2) 2012年度後期の最初と最後に提出した課題を比較した結果、未提出の学生もいたために、35名の全部課題を提出した学生の最初と最後の提出した英作文を分析した結果、Lexile指数平均点には大差がないことから、英語のライティングは上達していないことが判明した(萱, 2013)。
- (3) オンライン講義に関しては、約61%の学習者が、「英語力をアップするのにオンライン講義は役立った」と回答した。否定的な学生は、8%で、オンライン講義を肯定的にとらえている学生が多かったことが判明した。

5. おわりに

本実験でシームレスな環境で、モバイル端末の英語学習利用を強く推奨したが、実際にどのくらいの割合でモバイル端末を英語学習に活用したのか不明であった。そのために、「どのくらいの割合で携帯デバイスを英語学習に利用したか」というアンケートを実施した結果、学習時間の約30%をモバイル端末利用で学習し、70%はパソコンでオンライン教材を学習していたことが判明した。

100%モバイルを利用した学習は不可能であるが、TOEICのテストならびにアンケート結果からも分かるように、オンライン上の教材を利用した英語学習の有効性が確認できた。また、iPadなどの携帯端末は完全に普及しておらず、特にReading学習を行う際には、携帯電話の画面のサイズに左右され、やりづらかったと言う意見も多かった。PCと携帯をうまく融合させ、対面授業も重視しながら、ブレンド型の英語教育を行っていく必要はあろう。オンライン上の教材を学習するには、自律した学習者でないとなかなかうまく進まないのも事実であり、今後研究の課題である。

今後オンライン講義を英語学習教材として活用していく可能性もさらに高まってくると言える。常に時代は変化していくなかで、思い切って変えることができるものは良い方向に変化させ、不可能なことは冷静に何を変化させていくべきなのかを考察し、学習者を正しい方向に導いていく必要があろう。

謝辞: この原稿をまとめるために、私の授業実験結果を分析し、統計処理して下さった、学習院女子大学准教授の萱忠義氏に感謝を述べたい。

参考文献

- (1) ダニエル ライオンズ: Nothing comes for free - 学費はタダ - オンライン大学の危うい実験, ニューズウィーク日本版, 11月7日版, pp.42-47 (2012).
- (2) Gose, B.: 4 Massive Open Online Courses and How They Work, *Chronicle of Higher Education*, 59(6), B8 (2012)
- (3) Martin, F. G.: Will Massive Open Online Courses Change How We Teach? *Communications of the ACM*, 55(8), pp. 26-28 (2012).
- (4) Bell, M.: Massive Open Online Courses, *Internet @Schools*, 19(5), pp. 23-25 (2012).
- (5) 寺尾敦: ICTを活用して深い学習を支援する, *Computer & Education*, vol. 33, pp.28-33 (2012).
- (6) Obari, H., Ito, K., Lambacher, S., Kogure, Y., Kaya, T. and Furukawa, H.: The Impact of E-learning and M-Learning on Tertiary Education. In T. Bastiaens & G. Marks (Eds.), *Proceedings of World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education*, pp. 303-312 (2012).
- (7) 小張敬之・萱忠義「オンライン講義を利用したモバイル英語教育」*シンポジウムモバイル13*, pp.175-176.(2013).